

平成 25 年度 事務事業マネジメントシート [事後評価]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	09	01	01	0403	消防・救急救助充実強化事業

事業期間	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返	<input type="checkbox"/> 期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	---	-------------------------------	-----------------

《事業目的》
 消防・救急救助体制の充実強化

《事業開始の背景》
 ・災害事案が多様化しており、各種訓練の参加や研修会、講習会受講により技能向上を図る。
 ・救急隊員資格、救急救命士制度の創設及び救命士の特定行為処置拡大等による資格取得が必要となった。

《事業概要》
 ○消防隊員の実務研修及び各種訓練への参加
 ○救急救命士の養成研修及び病院研修の実施

市民参画の有無 [対象外]

《事業展開の留意事項》

《成果指標》

項目	単位	区分	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)
① 救急・救助資格者／警防員	%	目標	88.0	90.0	90.0
		実績	86.5	89.4	
② 救急救命士資格取得者・薬剤投与資格取得者	人	目標	2	2	2
		実績	2	3	
③ 救急救命士出場率	%	目標	98.0	100.0	100.0
		実績	98.3	97.7	

分野	担当部(機関)	担当課(機関)	担当係長	(内線)
暮らし	消防本部	警防課	戸来清彦	

		25年度	当初(現計)	補正	25年度	26年度
事業費		22,475				
財源内訳	国庫支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源	22,475				

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること

消防・救急救助充実強化事業費 22,475千円

- 災害対応、消火活動体制の充実強化 3,412千円
活動資器材、消火用薬剤等装備品
- 救急救助活動体制の充実強化 7,881千円
救急救助活動資材等装備品
- 救急救命士の養成 6,564千円
救急救命東京研修所、病院実習等
- 特殊車両等運転資格取得の推進 621千円
大型免許、2級小型船舶、小型移動式クレーン等
- 消防職員の教育研修 3,997千円
消防大学校、岩手県消防学校、各種研修受講

平成 25 年度 事務事業マネジメントシート [事後評価]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	09	01	01	0403	消防・救急救助充実強化事業

総合計画	政策	都市内分権構築で市民参画・協働のまちづくり	施策	5-3	防災体制・減災対策の拡充
目的	消防・救急救助体制の充実強化				
対象	消防・救急隊員				
意図	消防力の強化を図り、あらゆる災害から市民の生命・身体、財産を守る体制を充実させる。				

《事業概要》…上記目的を実現するための事業手法を記載すること

○消防隊員の実務研修及び各種訓練への参加
○救急救命士の養成研修及び病院研修の実施

市民参画の有無 [対象外]

市民協働の形態 共催 実行委員会・協議会 事業協力・協定
 後援・協賛 補助・助成 委託

活動指標 (上記「事業概要」に対応)	単位	区分	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)
① 救急隊員シュミレーション訓練	回	計画	12	12	12
		実績	11	12	
② 救急・救助課程有資格者の養成(消防学校)	人	計画	8	8	8
		実績	8	8	
③ 救助技術訓練	回	計画	80	80	80
		実績	57	70	
成果指標 (上記「意図」に対応)	単位	区分	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)
① 救急・救助資格者／警防員	%	目標	88.0	90.0	90.0
		実績	86.5	89.4	
② 救急救命士資格取得者・薬剤投与資格取得者	人	目標	2	2	2
		実績	2	3	
③ 救急救命士出場率	%	目標	98.0	100.0	100.0
		実績	98.3	97.7	

要因分析 達成度 目標値より高い 概ね目標値どおり 目標値より低い

資格取得や研修のため、年間計画どおり学校や研修所に職員を派遣した。

《環境変化、意見・要望》…環境変化はないか？ 意見や要望が寄せられていないか？

救助及び救急搬送された傷病者等から、感謝の言葉が多数寄せられている。

目的妥当性	<p>公共関与の妥当性</p> <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 妥当でない	消防隊員、救急救命士の資格を取得するための研修や、隊員の技能向上を図るための講習・訓練で、市民の生命・身体、財産を守るため必要である。
有効性	<p>成果の向上余地</p> <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない	消防隊員の技術訓練や研修会、救急隊員の病院実習、研修会などを重ねることにより、隊員の技術向上が一層期待できる。また市民への応急手当講習等を指導する職員が不足する状況下にあるため、職員の確保が必要である。
効率性	<p>事業費・人件費の削減余地</p> <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> どちらも削減余地がない	<ul style="list-style-type: none"> 救急、救助隊員でなければ活動困難な特殊業務であり削減の余地はない。 特殊業務であり委託は考えられず、必要最低限のコストであるため削減の余地はない。
公平性	<p>受益と負担の適正化余地</p> <input type="checkbox"/> 受益機会の見直し余地がある <input type="checkbox"/> 費用負担の見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適正である	災害現場などにおける消防体制の充実と強化及び消防隊員、救急隊員の資質向上として適正である。

《総合評価》…上記評価結果の総括

各種災害現場活動に対応するため、各種訓練・研修会への参加及び各種資格取得を行い、隊員の技能向上がみられた。